

## 概要

周辺8町との合併による生活圏域の拡大や高齢化の進行等に伴い、呉市における市民の移動ニーズは大きく変化しつつある。

こうした中で、呉市の公共交通のうち、幹線となるJR呉線や呉市営バス等の路線と、これを補完する循環バスや合併町における生活バス(みなし4条)、さらには生活航路や離島航路といった支線となる路線の役割分担を明確化し、市民ニーズに応じた移動サービスをより効率的かつ効果的に展開していくことは、呉市における今後の大きな課題となっている。

これらの課題解決に向け、平成21年度より「バス路線網の再編(倉橋地区)」や「市民主導型の移動手段確保の仕組みづくり」等の各施策に取り組んだ結果、一定の成果を収めており、連携計画の最終年度となる本年度においては、昨年度に引き続き、「音戸渡船の維持・支援事業」の実施を予定している。

### 音戸渡船の維持・支援事業

「音戸渡船」は、300年もの歴史を有するとされ、周辺住民の日常生活に欠かせない公共交通機関でありながらも、近年では存続すら危ぶまれる状況となっている。

このため、昨年度までの2年間、地元まちづくり協議会が主体となり、「音戸渡船」の今後のあるべき姿を明確化するとともに、当面の維持・支援策等についての検討を重ね、広報・周知策やイベントとの連携等、利用促進策を中心とした事業を展開し、一定の効果を収めてきた。

本年度においては、これらの地元主体による事業等の効果をさらに高めるため、「音戸渡船」と路線バスとの交通結節点である警固屋地区側に、渡船利用者及びバス等の乗継利用者のための公衆便所を整備し、利用者の利便性向上及び利用促進等につなげる。



公衆便所整備  
(イメージ)

#### 【公衆便所整備概要】

規模  
W3,337×D2,227×H2,340  
設備  
多目的トイレ(1)  
小便器(1)  
ベビーシート  
オストメイト対応設備 等  
概算事業費  
約6,500千円  
(うち、国庫補助額2,565千円)



音戸渡船の維持・支援事業  
(公衆便所整備)

【音戸渡船口】  
音戸渡船と路線バスとの  
交通結節点